

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	九州大学	整理番号	2004
プログラム名称	マス・フォア・イノベーション卓越大学院		
プログラム責任者	辻井正人	プログラムコーディネーター	佐伯修

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、卓越した数学モデリング人材を育成する「マス・フォア・イノベーション連係学府」が令和4年4月にすでに開設されている。研究科等連係課程実施基本組織として初めて九州大学に設置された学府であり、当該プログラムを九州大学の最重要大学院プログラムに位置付けるなど、大きく評価できる。研究科等連係課程を活用するのは卓越大学院プログラムの中でも本プログラムのみであり、他大学のモデルになると同時に自走期間においての本事業の目的達成に寄与することが期待できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性と、高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、機構長を総長、プロボストおよび関係理事による連携体制でなる未来人材育成機構を設置し、博士人材の教育・研究の高度化を推し進めており、評価できる。知のプロフェッショナル養成のための指導体制としては、研究メンター（指導教員）、共創メンター、グローバルメンター、ヤングメンター、実務メンター（企業）等からなるマルチメンター制度により組織的な指導体制の強化を図っていることが評価できる。結果として、博士人材の研究力強化のKPIとして国際ジャーナルへの掲載数、受賞件数等において十分に達成している。定量的な研究力強化だけでなく、異分野での新たな知の創出にも貢献していることが評価できる。さらに、卓越社会人博士課程制度を人材交流に活用し、著名な外国人研究者をクロスアポイントメントで雇用するなど、ネットワークの形成にも注力しており評価できる。

優秀な学生の獲得については、マス・フォア・イノベーション連係学府設置記念シンポジウムなどで本プログラムの周知をしたり、学内資源を活用した授業料補助や奨励金

等の拡充により優秀な学生の獲得に努めている。結果として、学生数の充足率は 100% を超えており、またプログラム合格倍率も増大していることなどが評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、学位審査体制について、MFF 評価委員会が予備審査を行い、MFF 審査委員会が博士論文と公開口頭発表により本審査を行う。主査は指導教員以外が担当し、委員会を担当教員と共創分野の世界的に著名研究者などの 3 名以上から構成されていることなど公平性が保たれていることが評価できる。博士前期課程修了時の資格審査 Prelims や博士後期課程 2 年修了時の資格審査 Preliminary thesis Exam など実施され厳しい質保証システムを敷いている。

事業の継続・発展については、プログラムの継続性、マネジメント体制の構築を担保するため未来人材育成機構を新設し、さらに前述したような連係学府を設置した。資金面では、企業との共同研究の拡充により担保されることになり、また分野も拡大して、数学以外のプログラム担当者が増強される見通しとなっている。これらの施策および PDCA サイクルの構築により、プログラムの継続性を引続き念頭に置きながら、知的アセットの価値化を通じプログラムの拡充を図っていった欲しい。